

# 2023年度 第1四半期 決算説明資料

保土谷化学工業株式会社

セグメント	事業	主要製品
機能性色素	有機EL材料	有機EL材料(輸送材料、発光材料、表面保護材料)、PCR診断キット用材料
	イメージング材料	トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料
	先端材料	カラーフィルター用染料、近赤外吸収材料、有機太陽電池材料
	色素材料	アルミ着色用染料、文具用染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
機能性樹脂	樹脂材料	ウレタン原料、接着剤、剥離剤
	建築材料	土木・建築用の防水・止水材料、防水・止水工事
	特殊化学品	医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
基礎化学品	工業薬品	過酸化水素および誘導品、その他工業用基礎原料
アグロサイエンス	農薬・農業資材	除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
物流関連	物流関連	倉庫業、貨物運送取扱業、ISOタンクコンテナ保管事業

当社グループは、中期経営計画「SPEED 25/30」に掲げる「事業強化：新たなポートフォリオの構築」への対応として、下記を実施しております

1. 事業部の改編 【2023年4月1日～】

- ・「有機・光デバイス事業部」、「色素材料事業部」への改編
- 「有機・光デバイス事業部」に「先端材料営業部」を新設

2. 韓国事業戦略室の設置 【2023年7月1日～】

- ・有機EL材料事業等の「韓国におけるビジネス」のさらなる成長に向けた事業戦略の検討と推進を機動的かつ効率的に実行

◆ 事業強化の一環として、韓国の子会社「REXCEL CO., LTD.」を、2023年度第1四半期より連結子会社化

## 「REXCEL CO., LTD.」の連結子会社化

### 「REXCEL CO., LTD.」(株式会社レクセル) 概要(2023年6月30日現在)

- ・設立 : 2017年11月
- ・資本金 : 7,757百万ウォン
- ・代表者 : 金容權(Kim, Yong Kwan)、諸淙台(Je, Jong Tae)
- ・当社出資比率 : 30.4%
- ・所在地 :
  - 【忠州キャンパス】(本社機能を含む)
    - ・大韓民国 忠清北道 忠州市 大召院面 メガロポリス路51
  - 【陰城キャンパス】(2024年6月完工予定)
    - ・大韓民国 忠清北道 陰城郡 城本里 城本産業団地

## ・事業内容



### 【忠州キャンパス】

- ・当社グループ 保土谷化学韓国および SFCとともに有機EL材料生産の一端を担う拠点
- ・独自の精製技術での効率的な高純度化に強み
- ・半導体レジスト材料の精製も展開中



### 【陰城キャンパス】

- ・有機EL材料事業で培った、製造技術を活かしバッテリー用材料等の生産を展開予定
- ・既に用地は賃貸契約済。2024年6月完工予定

＜左は完成イメージ＞

## 第1四半期

単位: 百万円  
表示: 百万円未満切捨

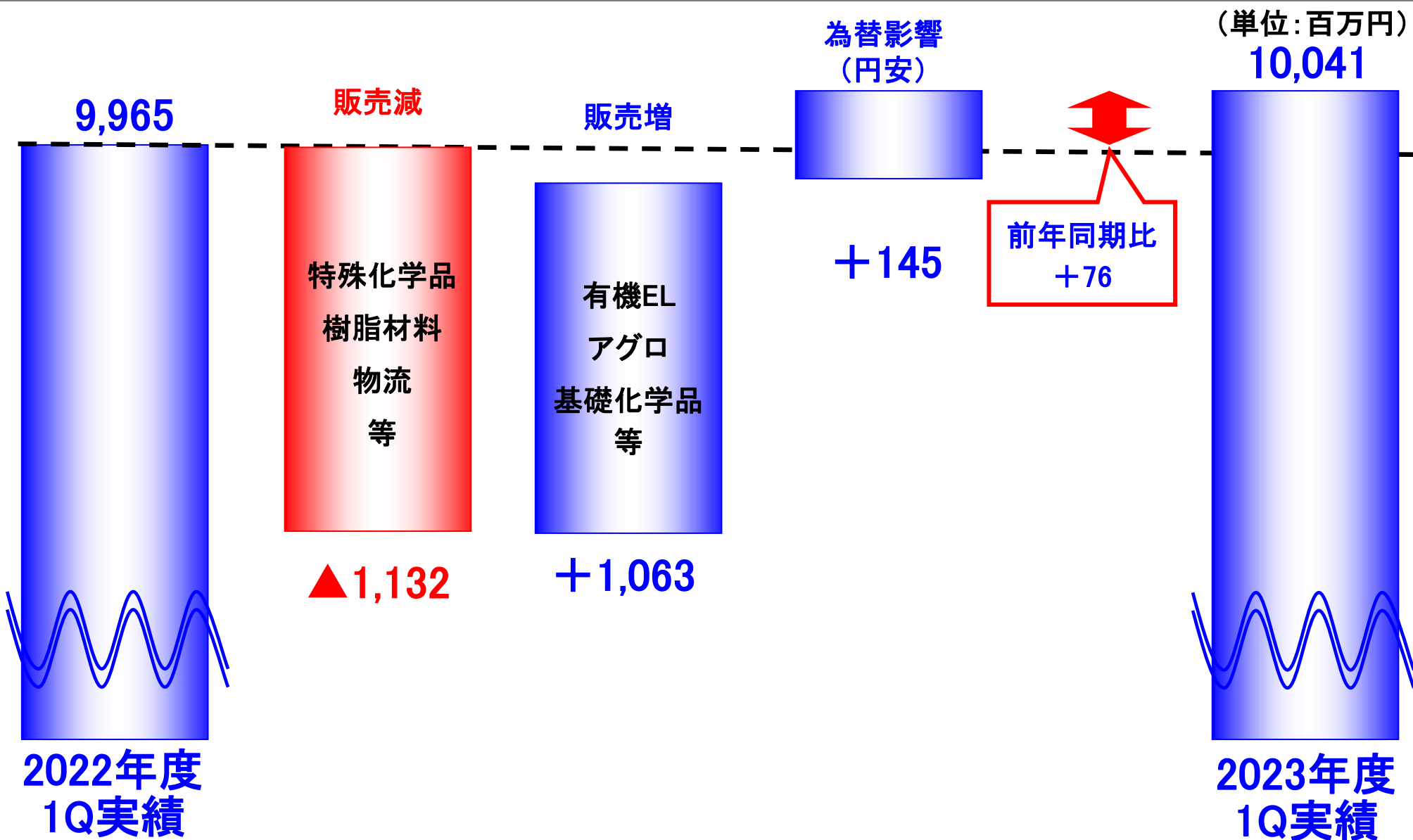
連 結	2022年度	2023年度	前年同期比
売 上 高	9,965	10,041	+ 76
営 業 利 益	1,001	337	▲ 664
経 常 利 益	1,402	768	▲ 633
親会社株主に帰属する 当期純利益	664	369	▲ 294

為替レート

\$=131.26円  
W=0.1034円

\$=139.63円  
W=0.1053円

\$=ドル  
W=韓国ウォン



- ・**売上高**は、機能性樹脂、物流関連が減少したものの、機能性色素、基礎化学品、アグロサイエンスの増加および円安の効果により、76百万円の**増収**
- ・**営業利益**は、樹脂材料の海外需要減少および一部製品の在庫評価減の影響に加え、原燃料価格の高騰継続や経費等の増加により、664百万円の**減益**
- ・**経常利益**は、営業利益の減少により、633百万円の**減益**
- ・**親会社株主に帰属する当期純利益**は、経常利益の減少により、294百万円の**減益**



(単位:億円)

科目	2023年 3月末	2023年 6月末	増 減
(流動資産)	365	383	+17
現預金	104	134	+29
売上債権	129	109	▲19
棚卸資産	120	125	+4
その他	11	13	+2
(固定資産)	354	370	+16
有形・無形 固定資産	239	263	+24
投資有価証券	85	87	+2
その他	29	19	▲10
合計	720	753	+33

科目	2023年 3月末	2023年 6月末	増 減
(負債)	221	228	+6
仕入債務	46	48	+2
有利子負債	105	103	▲1
その他	70	76	+6
(純資産)	498	525	+26
資本金	111	111	-
資本剰余金	79	79	▲0
利益剰余金	186	188	+2
その他	121	145	+23
合計	720	753	+33

第1四半期

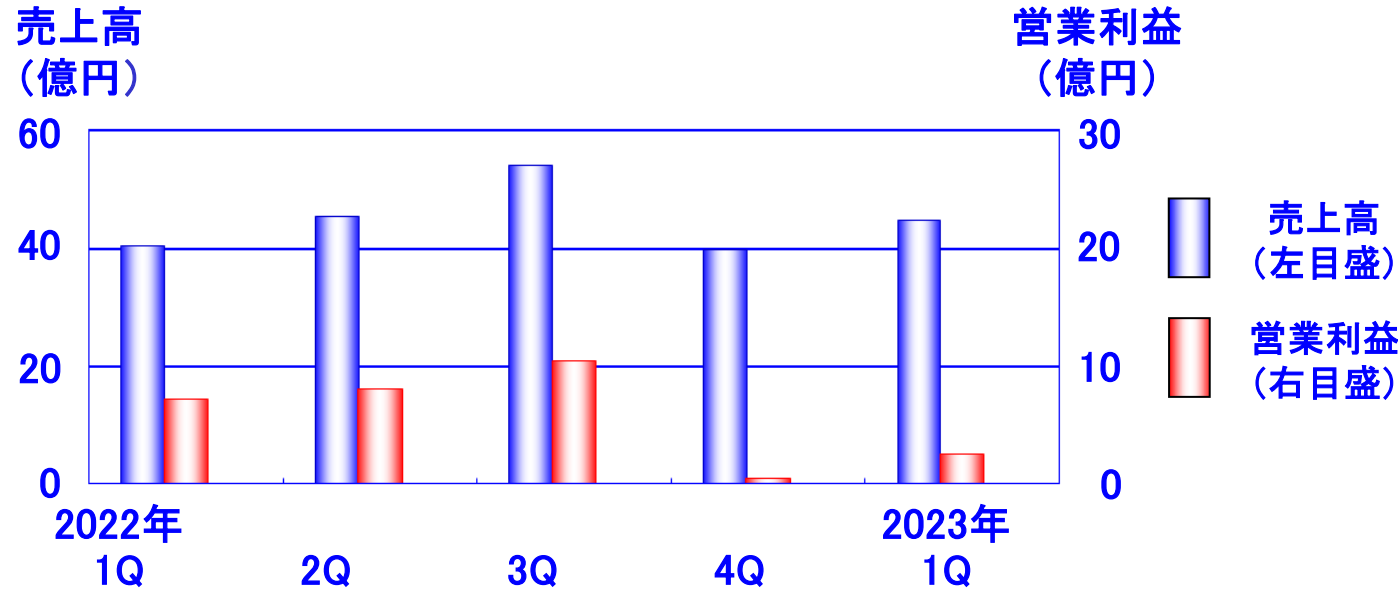
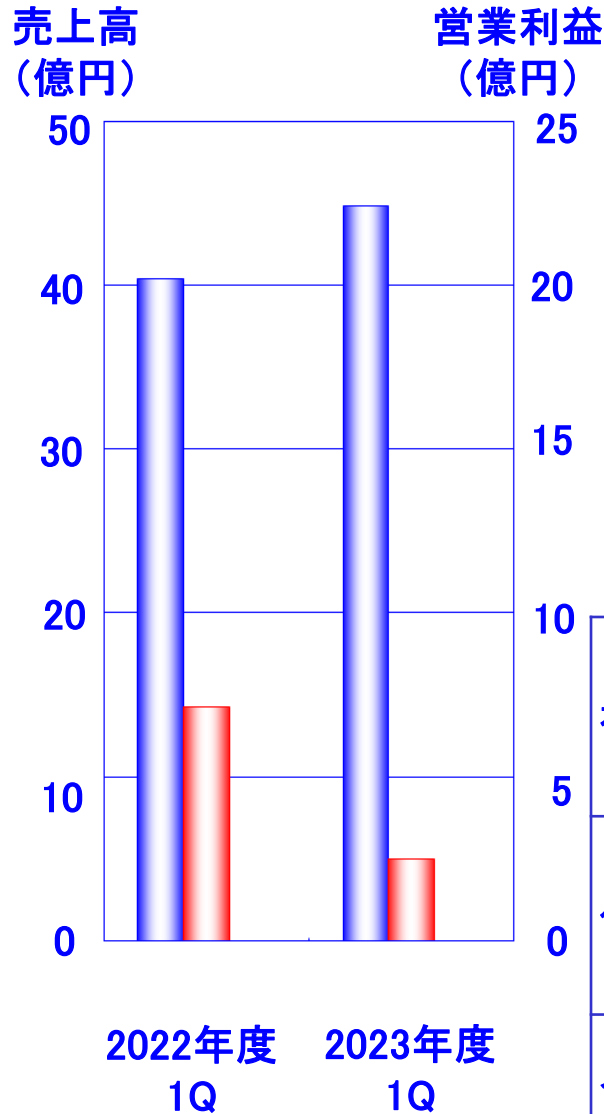
単位：百万円  
表示：百万円未満切捨

セグメント	2022年度	2023年度	前年同期比
機能性色素	4,040	4,487	+ 446
機能性樹脂	2,502	1,962	▲ 540
基礎化学品	1,753	1,871	+ 117
アグロサイエンス	1,144	1,292	+ 147
物流関連	510	388	▲ 122
その他	12	39	+ 27
合計	9,965	10,041	+ 76

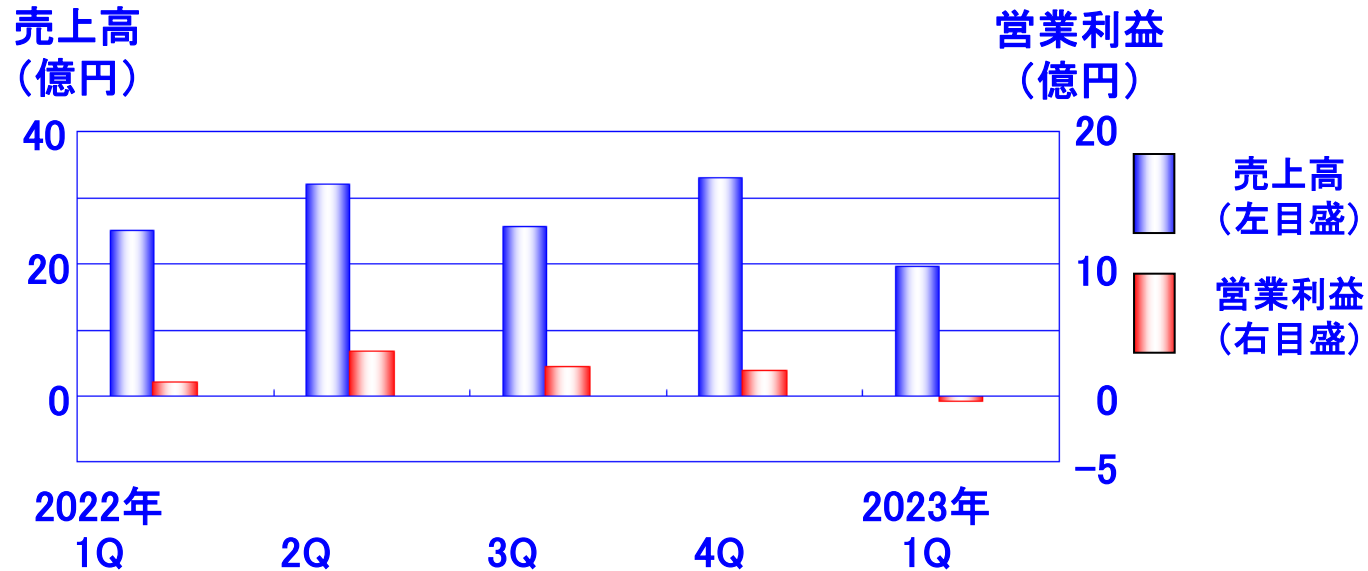
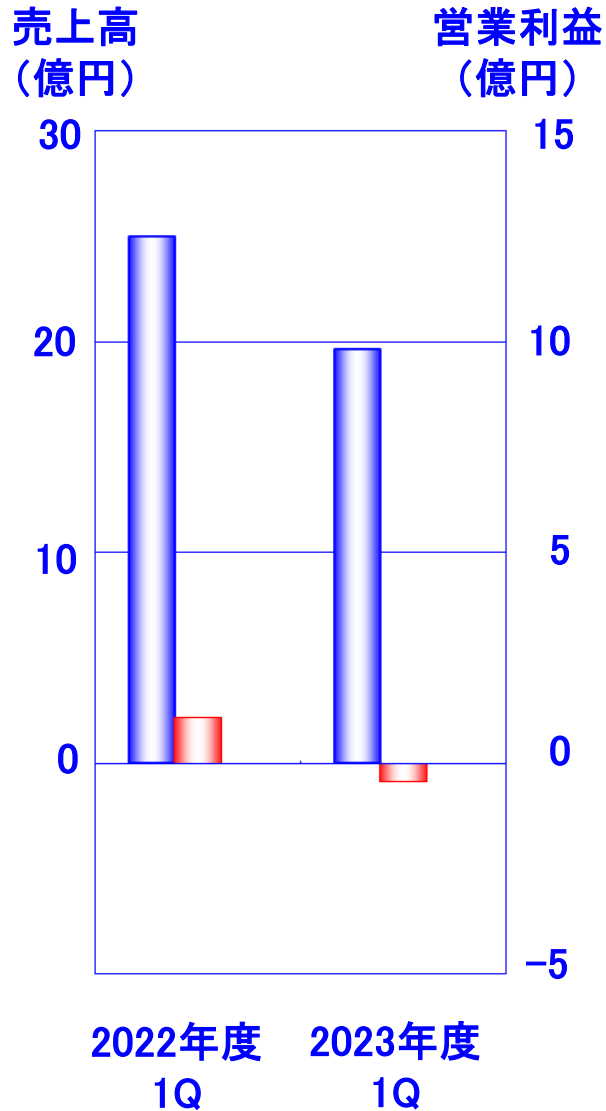
第1四半期

単位：百万円  
表示：百万円未満切捨

セグメント	2022年度	2023年度	前年同期比
機能性色素	714	250	▲ 464
機能性樹脂	107	▲ 43	▲ 150
基礎化学品	▲ 56	16	+ 73
アグロサイエンス	154	66	▲ 87
物流関連	83	47	▲ 35
その他	▲ 2	0	+ 1
合計	1,001	337	▲ 664



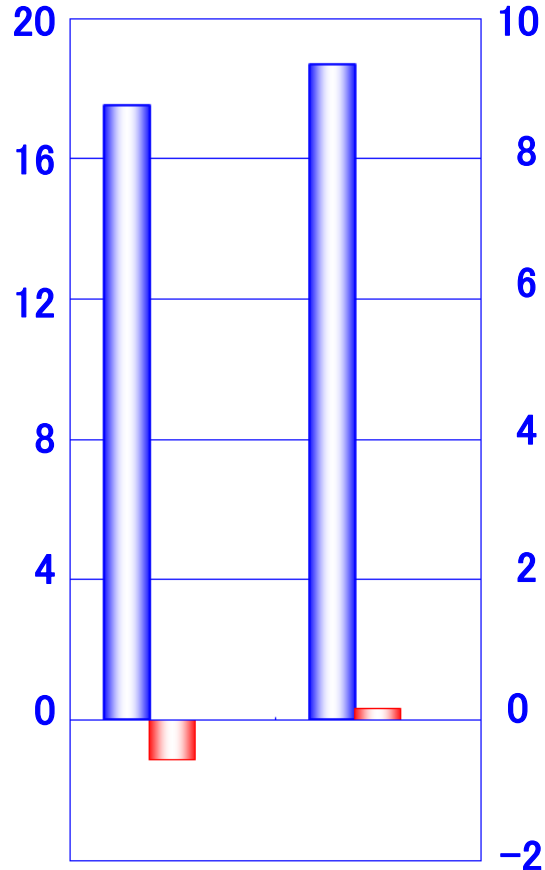
有機EL材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社の子会社におけるPCR診断キット用材料のアフターコロナにより需要が大幅減少となったが、スマートフォン向けを中心とするディスプレイ分野において、有機EL材料の需要が引き続き増加し、事業全体としては大幅な増収</li> </ul>	↗
色素材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルミ着色用染料のスマートフォン向けを中心に販売が減少したが、繊維向け染料の海外での需要が回復し、また、天然色素において食品向けに加え、工業製品での採用等により増加し、前年同期並み</li> </ul>	→
イメージング材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリンター向け材料の需要が海外を中心に低迷しており、大幅な減収</li> </ul>	↘



樹脂材料	・海外向けを主とするウレタン材料の在庫調整の影響を受け、大幅な減収	↓
特殊化学品	・医薬向け及び剥離剤向け等が低調に推移し、大幅な減収	↓
建築材料	・材料販売を中心に、前年同期並み	→

売上高  
(億円)

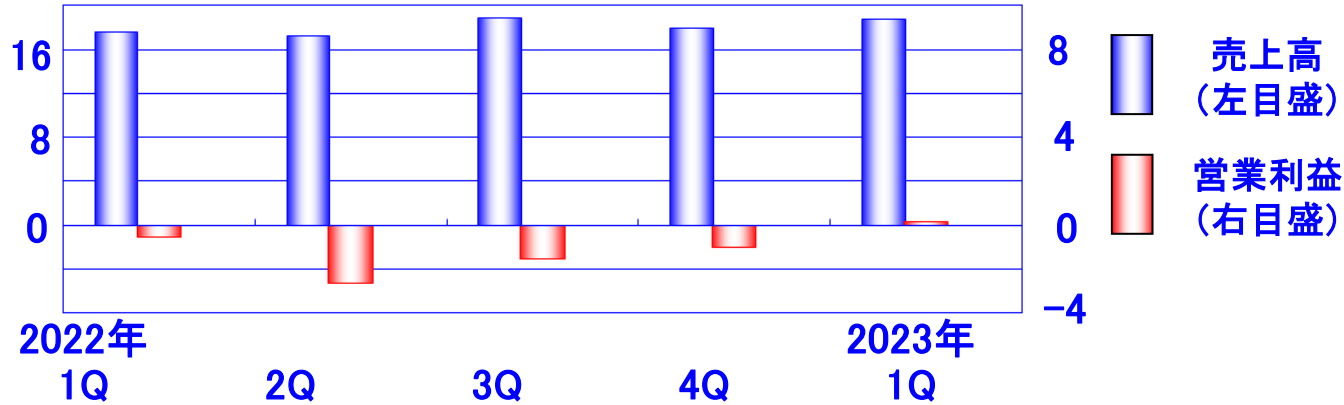
営業利益  
(億円)



2022年度 1Q      2023年度 1Q

売上高  
(億円)

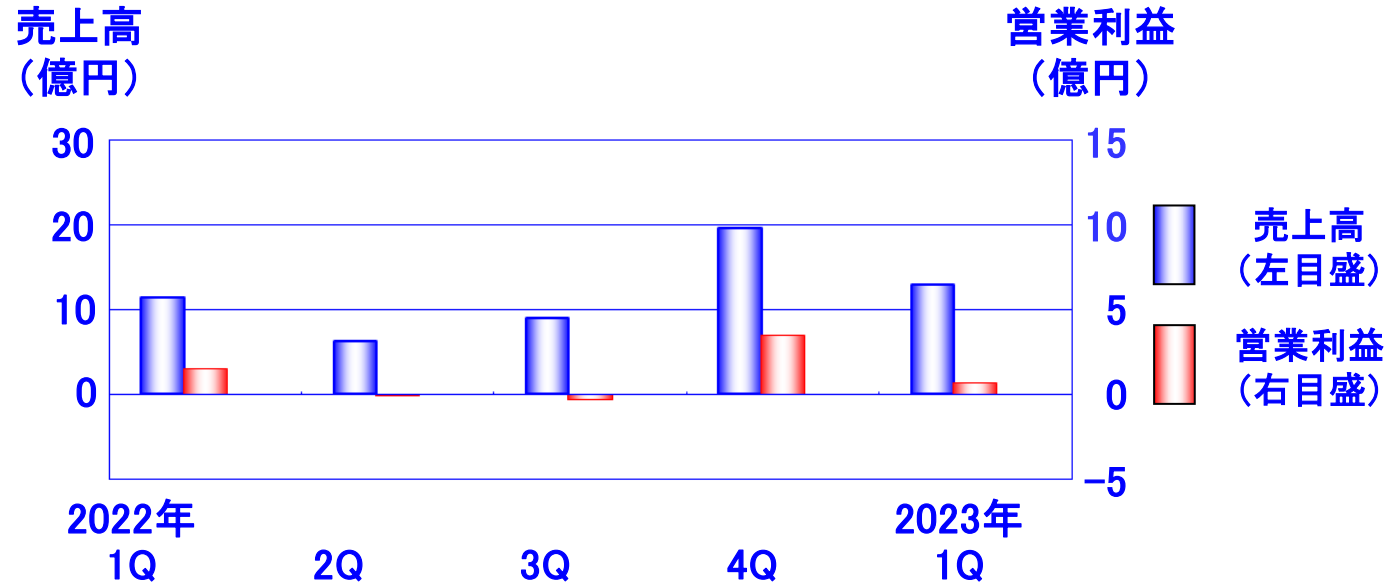
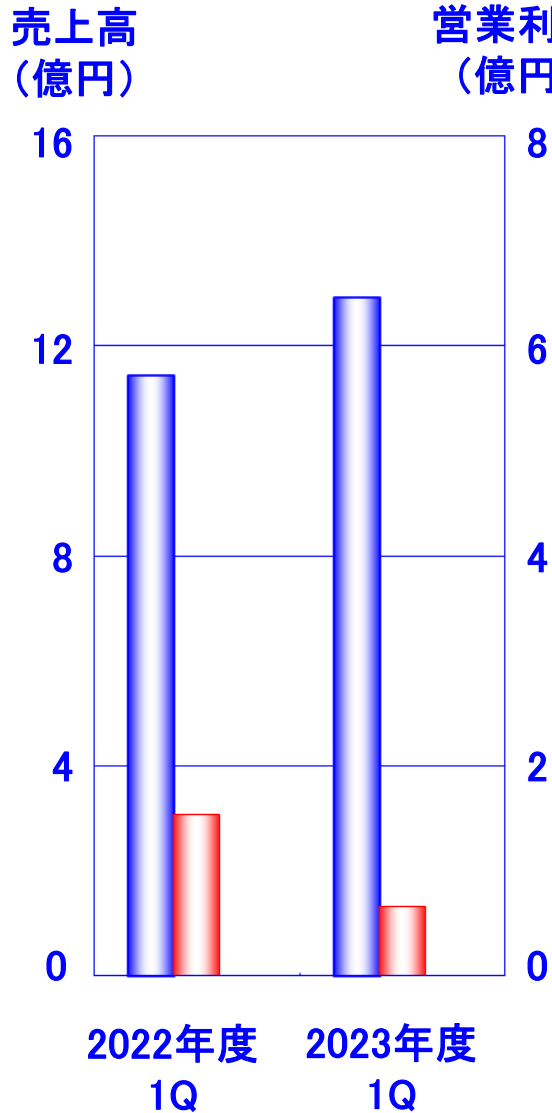
営業利益  
(億円)



過酸化水素及び誘導品(※) 過酸化水素は数量減に対し価格転嫁を進めたことで前年同期並みに推移し、過炭酸ナトリウムの需要取り込みにより、増収

※過炭酸ナトリウム、過酢酸等





アグロサイエンス

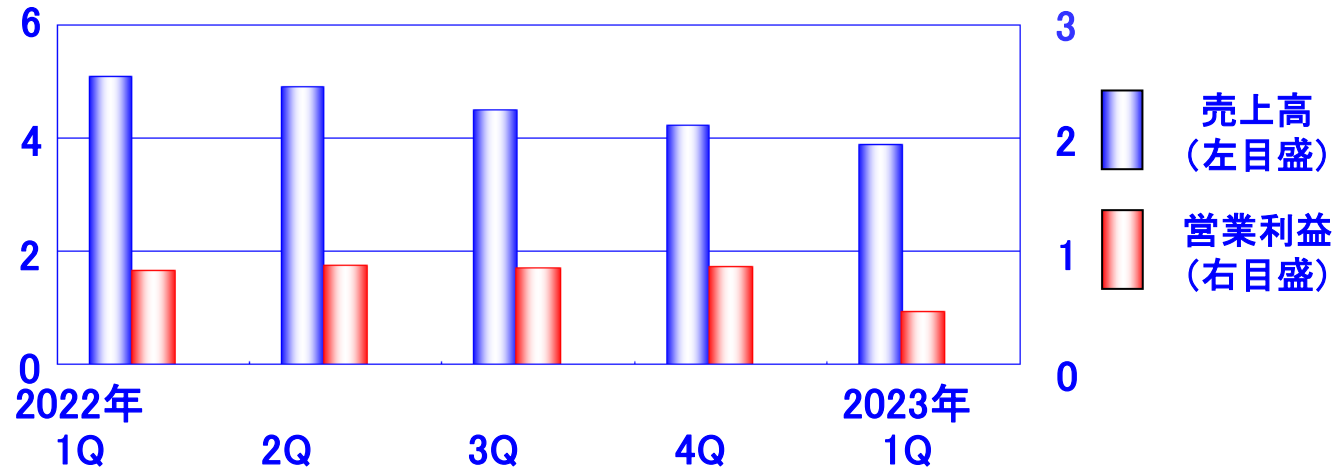
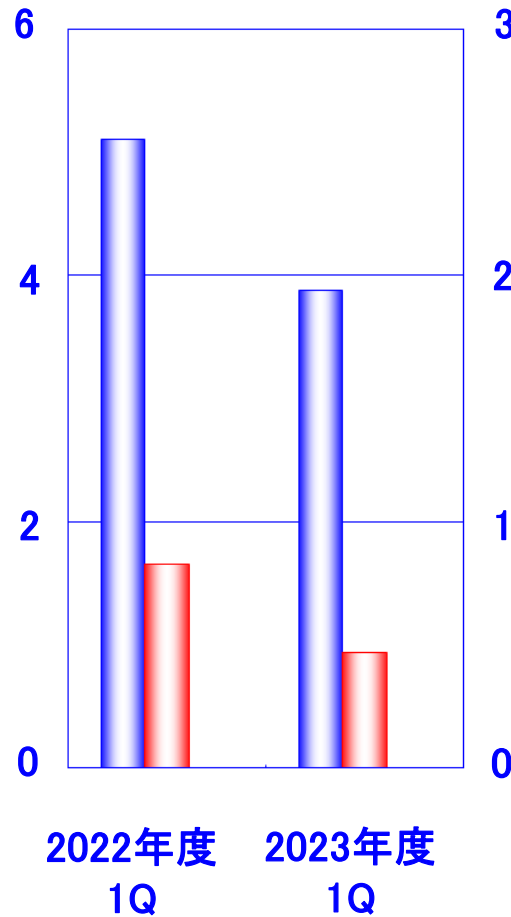
- ・家庭園芸及び農耕地向け除草剤の需要好調等により大幅な増収

売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)

売上高  
(億円)

営業利益  
(億円)



物流関連 ・輸出貨物の取り扱いにおいて、中国等での景気減速により大幅な減収